

第3回新しい学校づくり基本方針検討委員会 会議録

○日時 2024年10月18日(火) 15:00~16:30

○場所 須坂市防災活動センター活動室1

○出席者 委員8人、事務局4人

1 開 会

2 あいさつ

勝山教育長：

- 少人数の学校でも解消できない地域であれば仕方がないが、そうでなければ我々が何もしないでこのまま行くのは、子どものためにならない。須坂市として、地域と一緒に考えていきたい。
- 最終的には須坂市は魅力ある教育を進めていく地域ということを、色々な人に知っていただきたい。

3 議 事 (進行：委員長)

事務局：説明

- (1) 須坂市がめざす子どもの姿、学園の姿
- (2) 基本方針素案
- (3) 小中一貫教育カリキュラム(須坂モデル)の具体
- (4) 広報「新しい学校づくりだより」

(5) 意見交換

委員長：

- まず須坂市がめざす子どもの姿、学園の姿についてご意見をお願いします。

委員：

- 多様な価値観に「出会え」と「出会い」のニュアンスの違い。「友と地域とともに」は友と地域が同じ土台なのか、ニュアンスの確認をお願いしたい。

委員：

- 「価値観に」よりは「価値観と」の方が読みやすい。

委員長：

- 子どもを主体にした場合、「学びがつながり」は「学びをつなげ」の方がよい。

事務局：

- 「社会に生きる」という言葉は、一般の人には分かりづらい。「社会に」は不要。

委員：

- 冒頭に「子どもが」と書いて、3つのめざす姿を続けて書いてもよい。

委員長：

- 今出た意見を確認すると、冒頭に「子どもが」と付けて、
「学びをつなげ、生きる力を伸ばす学校」
「多様な価値観と出会い、友と学び、地域とともに歩む学校」
「自分らしさを発揮し、お互いを認め合う学校」

委員長：

- 次に、基本方針案についてご意見をお願いします。

委員：

- 第一学園の施設分離型については、他市でも検討されたことはあるが止めている。
- 他市では、ある小学校に1～4年、5～9年を別の中学校にという構想があったが、距離的に遠いということもあり実現しなかった。教育活動が充実するかという点もあった。
- 1～4年の校舎で学習は成立するが、5、6年生抜きで色々な教育活動が成立するかどうかが考えていく必要がある。
- 東中校舎で施設一体型もありではないか。高甫小校舎と東中校舎を分ける理由があるか。

事務局：

- 中1ギャップの解消として5～6年は東中校舎を利用することを考えている。
- 5～6年が中学生と一緒に学ぶことで不登校の軽減になる。
- 東中学校の教員数も命題の1つである。

委員：

- 児童の生活としては1～4年を高甫小に残しても運営はできる。しかし、4年までの限られた教職員で学校運営を1年間できるかという点と難しい。これまでと同じようなことをそこに求められると、無理が出てくると感じる。

委員：

- 分離型の義務教育学校のよさについては、改めて確認したい。

委員：

- 第一学園の施設分離型の場合、児童会はどうやるのか。

委員

- 義務教育学校では小学校、中学校という概念がない。9年間の学校。

事務局：

- 信濃小中学校では、中学3年生が会長をやっている。
- したがって6年生の成長が心配との意見もある。

委員：

- 基本方針案の第一学園を見たときに、校舎を改修、増築すると書いてある。それを見て、東中の敷地に小学校を作ればいいのかという意見が出てくるのではないか。

事務局：

- 東中に教室を増築できても、敷地的にプールや体育館までは難しい。

委員：

- 子どもも保護者もこれを見たときに魅力ある学校ならば、分離型でもいいと思う。

委員：

- 学校間を行き来できるカリキュラムがしっかり組まれていれば、分離型でもよいと思う。
- 昨日、バスに乗って生徒が市役所まで連れてきたが、たった10分でも生徒は喜んでいる。外に出る経験が生徒の喜びにつながっていく。
- たとえば、この1週間は高甫小で過ごすとか、交流を積極的にしているということが第一学園でできれば、次の学園にもつながっていく。

委員：

- 分離型のメリットについて他市の例として、ステージごとに学舎が分かれていることでそれぞれのねらいを明確に示すことができる。45分授業、50分授業の区別がつけやすい。体育館、グラウンド、特別教室等の施設が双方にあるため、充実した教育環境が整う
- デメリットは、児童生徒の移動に時間がかかる。教科担任制で行う授業に教員の学舎間移動が伴い、時間割編成が複雑になる。合同の職員会議の開催が困難と説明している。

委員長：

- 分離型のメリットについては改めて確認して、事例があればここで共有する。
- 東中にプレハブで小学校を増築するという案もでた。
- 交流ができるカリキュラムの充実という意見があった。

委員：

- 学園構想の具体のページで、第二学園準備と第一学園のレイアウトを左右入れ替えた方がよい。
- 第二学園に記載のある「通学区域の見直し」の囲みを、第三学園、第四学園にも同じようなレイアウトで記載した方が統一感があり見やすい。

委員：

- 「第二学園の開校に合わせて」は「第二学園の開校に向けて」の方がよい。

委員長：

- 次に、カリキュラム、広報案についてご意見をお願いします。

委員長：

- 「過程期ねらい」の主語が教員と子どもで混在している。「学んだり」「育成を図る」

委員：

- 「個に応じた学び」「個別最適化された学び」を「個別最適な学び」で統一した方がよい。
- 指導の個別化だけでなく、学習の個性化「一人ひとりの興味関心に基づいた」という内容も記載した方がよい。

4 その他

5 閉会